

D部門論文委員会意見交換会

2015年9月4日(金)

12時10分～13時10分

大分大学旦野原キャンパス 第1大講義室

(会期中:第1会場)

議事次第

- 論文委員会の体制紹介・編修長・英文編修長あいさつ

村上和文誌編修長

大石英文誌編修長

- 最近の和文論文誌委員会・英文論文誌委員会の活動について

- 査読マニュアルについて

- 和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・掲載状況について

- 電子査読システムの運用状況について

鈴木和文誌編修長補佐

- 昨年意見交換会での意見に対する報告

- 論文委員意見に対する回答

村上和文誌編修長

大石英文誌編修長

満倉靖恵D2副主査

- フリーディスカッション (13:10終了)

2

論文委員会の体制紹介・
和文論文誌編修長・英文論文誌編修長
あいさつ

産業応用部門 和文論文誌 編修長

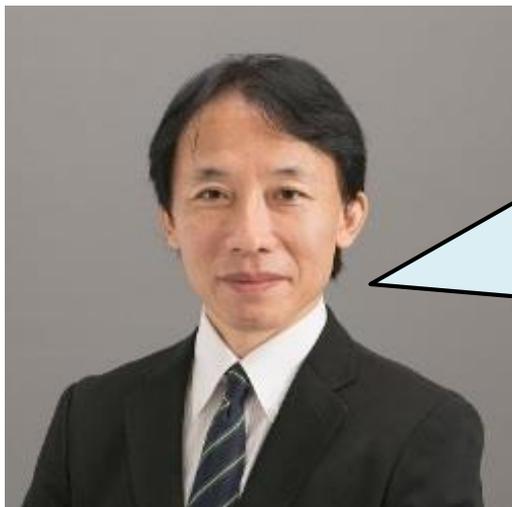
村上 俊之 (慶應義塾大学)

英文論文誌 編修長

大石 潔 (長岡技術科学大学)

3

論文委員会の体制紹介・ 和文論文誌編修長・英文論文誌編修長 あいさつ



和文論文誌 編修長
村上 俊之
(慶應義塾大学)

2015年6月より、和文誌編修長に就任いたしました。

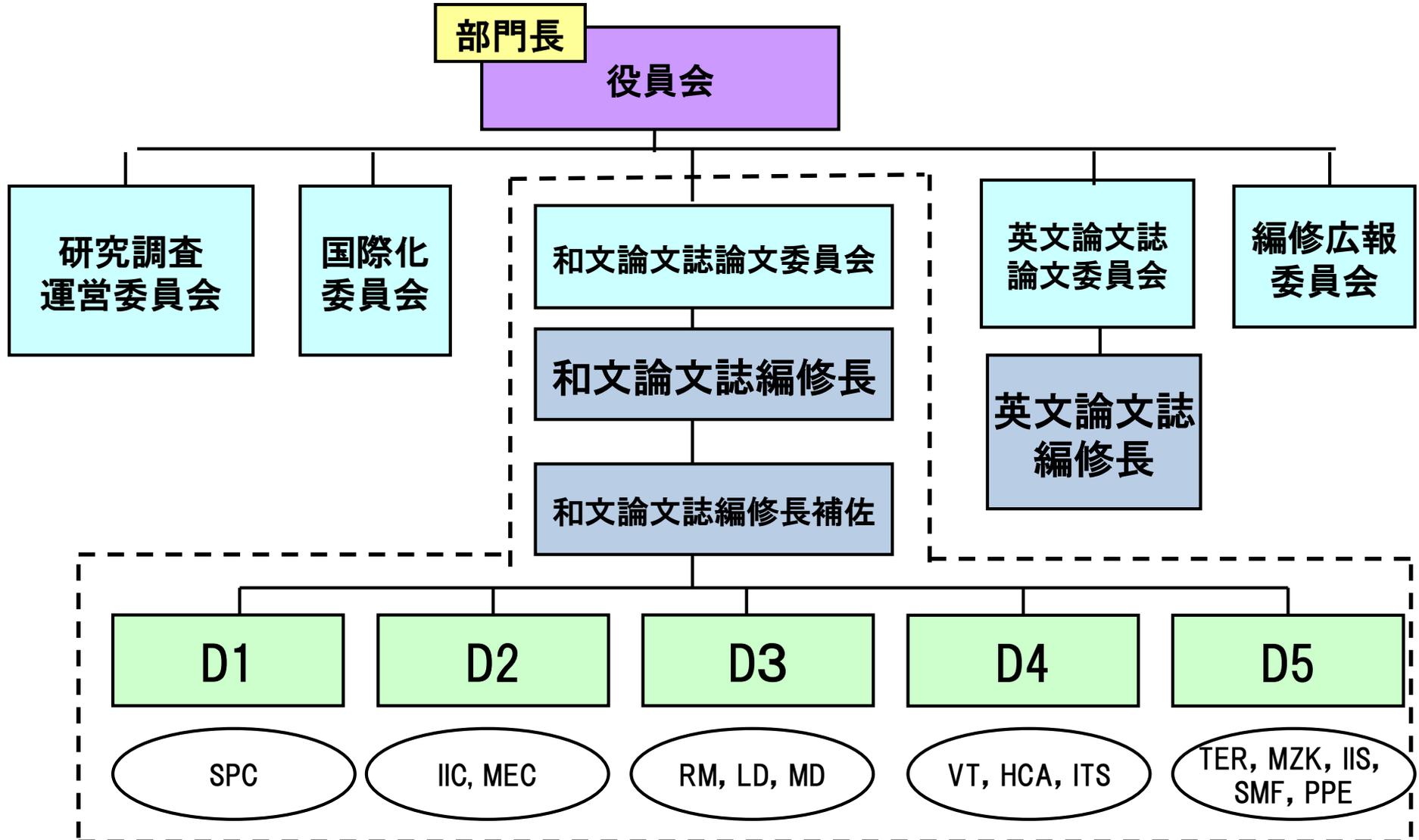
本日、大変恐縮ですが、1年半前より決まっておりました学内業務のため、意見交換会を欠席させていただきました。

深くお詫び申し上げます。

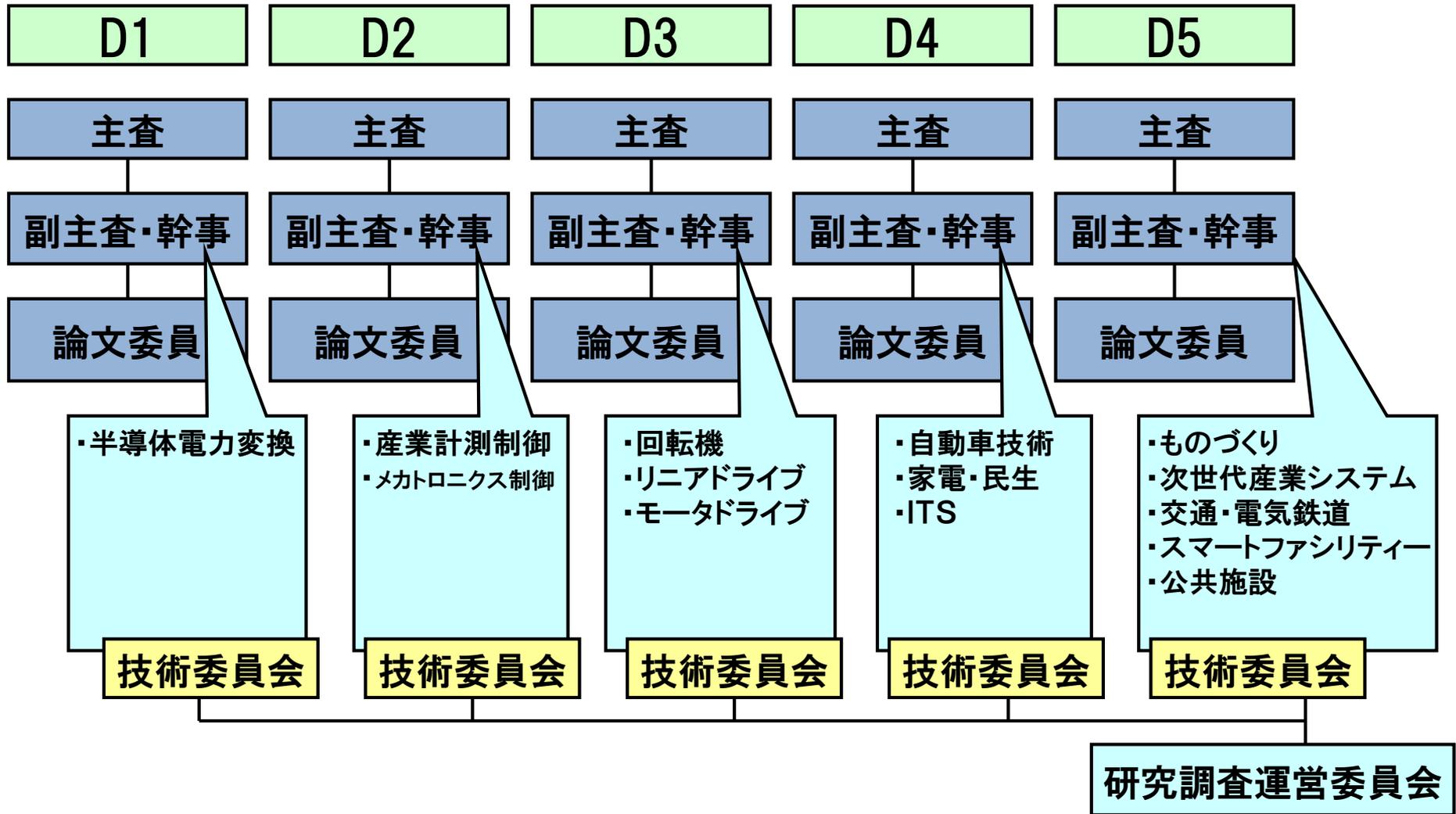
論文委員会の体制紹介・ 和文論文誌編修長・英文論文誌編修長 あいさつ

2004年に電子投稿・査読システムの試行運用をお手伝いしてから早くも10年以上が経過していることに気づき、改めて時の経過の速さを痛感しております。和文誌編修長として、魅力的な論文(資料)特集号企画の後押、また投稿したくなる論文誌システムの運用(査読運用を含む)を通して、多くの人に「読まれる」論文誌を目指し、尽力する所存です。どうぞよろしくお願い致します。

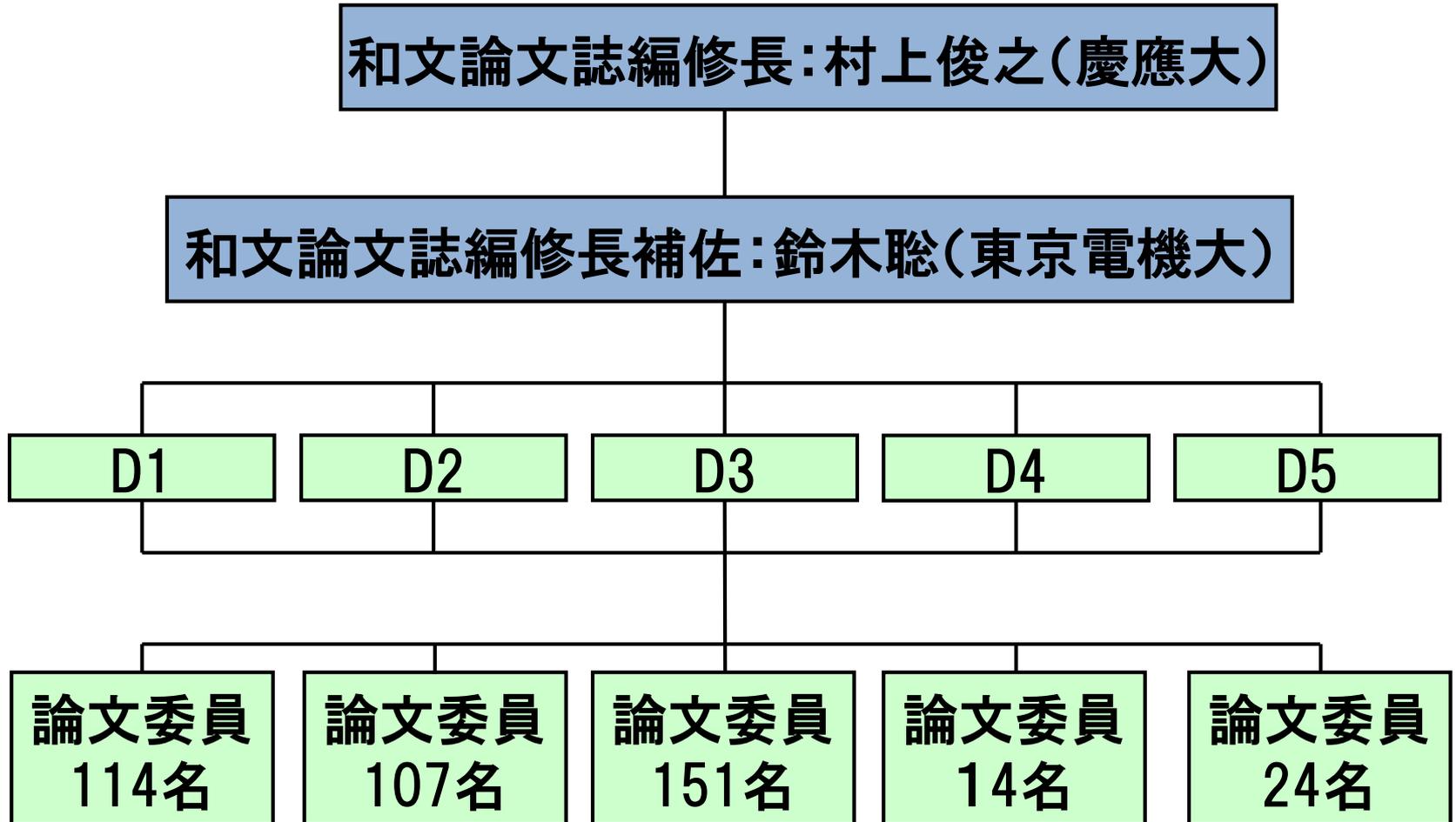
D部門における論文委員会



和文論文誌論文委員会の組織



和文論文誌論文委員会の構成



2015年度和文論文誌 論文委員会委員

D1	役職	氏名	所属
	主査	三野 和明	(株)村田製作所
	副主査	森實 俊充	大阪工業大学
	幹事	星 伸一	東京理科大学
	〃	伊東 淳一	長岡技術科学大学
	〃	和田 圭二	首都大学東京
	新幹事	前川 佐理	(株)東芝

D3	役職	氏名	所属
	主査	廣塚 功	中部大学
	副主査	森下 明平	工学院大学
	幹事	山本 吉朗	鹿児島大学
	〃	山本 修	職業能力開発総合 大学校
	〃	山本 康弘	(株)明電舎
	〃	榎本 裕治	(株)日立製作所
	〃	坂本 泰明	(公財)鉄道総合技 術研究所
新幹事	赤津 観	芝浦工業大学	

D2	役職	氏名	所属
	主査	駒田 諭	三重大学
	副主査	満倉 靖恵	慶応義塾大学
	幹事	熱海 武憲	HGST ジャパン
	〃	内村 裕	芝浦工業大学
	〃	藤本 博志	東京大学

D4	役職	氏名	所属
	主査	結城 和明	(株)東芝
	副主査	宮武 昌史	上智大学
	幹事	真田 雅之	大阪府立大学
	〃	高橋 聡	名古屋電機工業(株)

D5	役職	氏名	所属
	主査	結城 和明	(株)東芝
	副主査	宮武 昌史	上智大学
	幹事	市川 紀充	工学院大学
	〃	古関 隆章	東京大学
	〃	鈴木 健嗣	筑波大学
	〃	山中 理	(株)東芝
	新幹事	宇佐見 照夫	京都学園大学

英文論文誌論文委員会体制紹介

英文論文誌編修長 大石 潔(長岡技術科学大学)

Power Electronics and Its Applications

D6	役職	氏名	所属
	主査	横山 智紀	東京電機大学
	副主査	藤田 英明	東京工業大学
	幹事	芳賀 仁	長岡技術科学大学
	〃	星 伸一	東京理科大学

Electric Machine, Motor Drive and their Applications

D8	役職	氏名	所属
	主査	久保田 寿夫	明治大学
	副主査	小坂 卓	名古屋工業大学
	幹事	近藤 圭一郎	千葉大学
	〃	真田 雅之	大阪府立大学
〃	鳥羽 章夫	富士電機	

Motion Control, Robotics, Sensing and their Applications

D7	役職	氏名	所属
	主査	柴田 昌明	成蹊大学
	副主査	藤本 康孝	横浜国立大学
	幹事	石川 潤	東京電機大学
	〃	残間 忠直	千葉大学
〃	藤本 博志	東京大学	

- 投稿したくなる和文論文誌と英文論文誌をめざす！
- 読みたくなる論文掲載をめざす！
- 特集号の提案を積極的に行える論文誌をめざす！
→「資料」の特集号の試み

論文の著者と査読者に共通認識を持っていただくことが重要

- 査読マニュアルの周知・徹底
- 電子ジャーナルにふさわしい魅力的な論文題名、アブスタの公開

本日の出席予定者数

	委員数	出席者	欠席者	未定
D1	114	25	44	45
D2	107	22(2)	44	42
D3	151	28(3)	64	59
D4	14	6(2)	6	2
D5	24	4(2)	13	7
D6	3	2	0	1
D7	5	1	4	0
D8	5	4(2)	1	0
編修広報委員	36	14	12	11
合計	459(重複含)	106(重複:11)	188	167

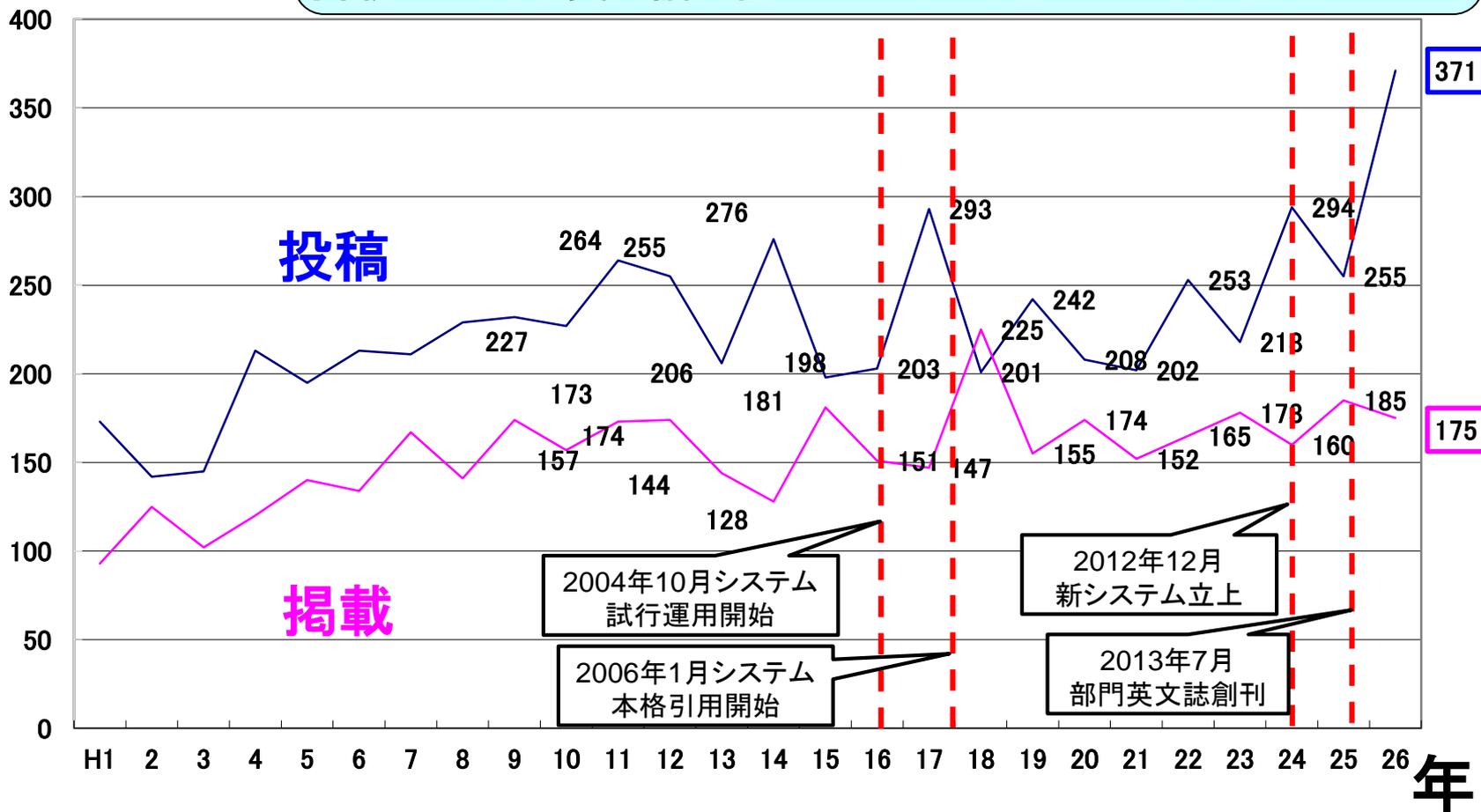
出席者総数:95名 ('14年:68名, '13年:70名, '12年:72名)

和文論文誌・英文論文誌の論文投稿・ 掲載状況について

D部門 論文投稿・掲載件数の推移

平成26年 投稿371(うち英文論文誌D 158) 掲載175(うち英文論文誌D 57)	平成25年 投稿255(うち英文論文誌D 92) 掲載185(うち英文論文誌D 57)
--	---

論
文
件
数



投稿

掲載

2004年10月システム
試行運用開始

2006年1月システム
本格引用開始

2012年12月
新システム立上

2013年7月
部門英文誌創刊

年

IEEJ Journal of Industry Applications (電気学会英文論文誌D)

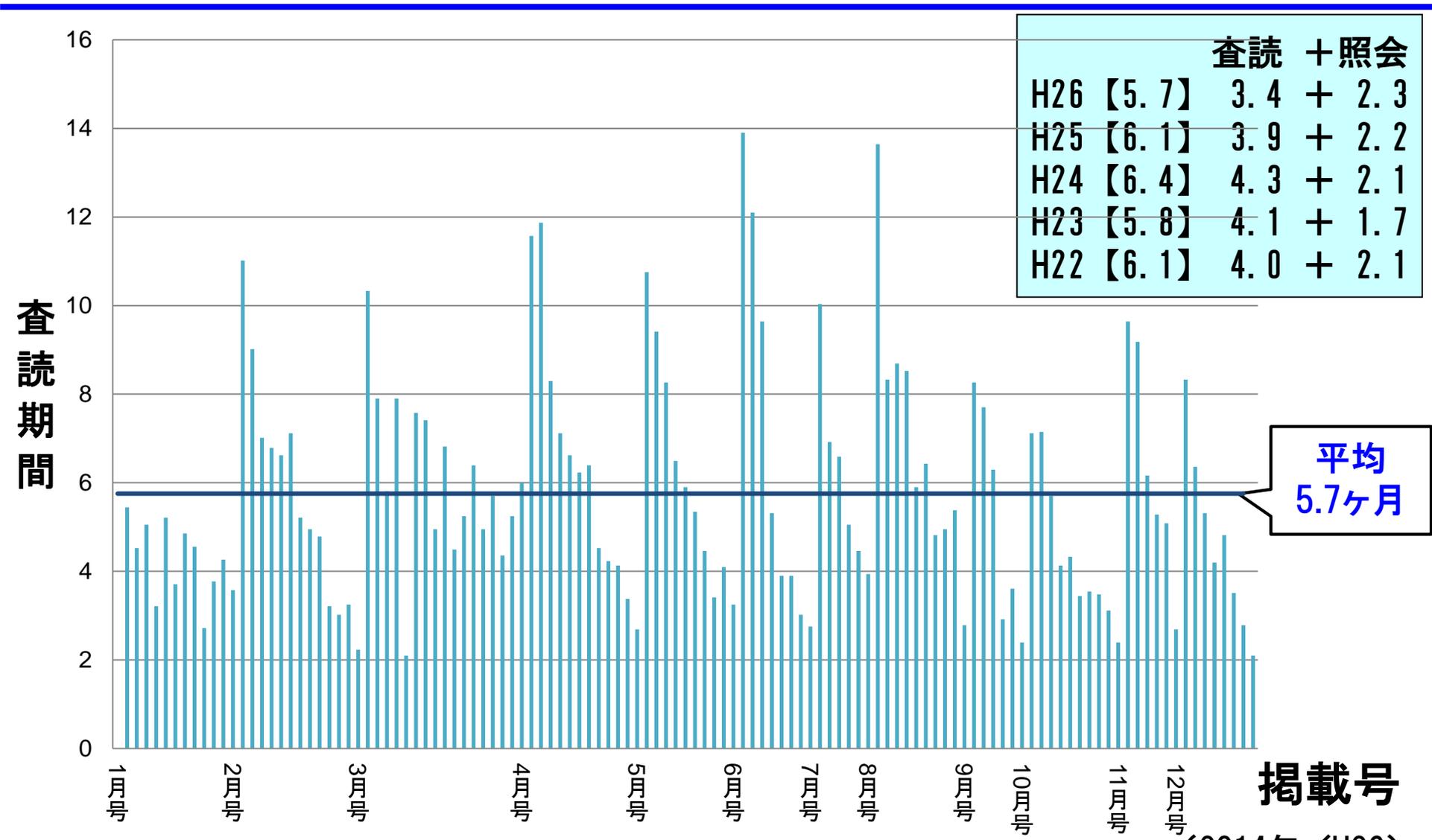
- 平成24年7月から発刊(隔月)
- アメリカThomson社の“Science Citation Index Expanded (TM)(SCI)”に取得を目標

2012年 7月	「Power Electronics」
2012年11月	「Motor Drive and Related Technologies」
2013年 1月	「Motion Control and its Related Technologies」
2013年 7月	「Power Electronics」
2013年11月	「Technologies of Rotating Machinery」
2014年 1月	「Motion Control and its Related Technologies」
2014年 3月	「Motor Drive and its Related Technologies」
2014年 7月	「Power Electronics」
2014年 11月	「Technologies of Rotating Machinery」
2015年 1月	「Motion Control and its Related Technologies」
2015年5,7月	「IPEC-Hiroshima」

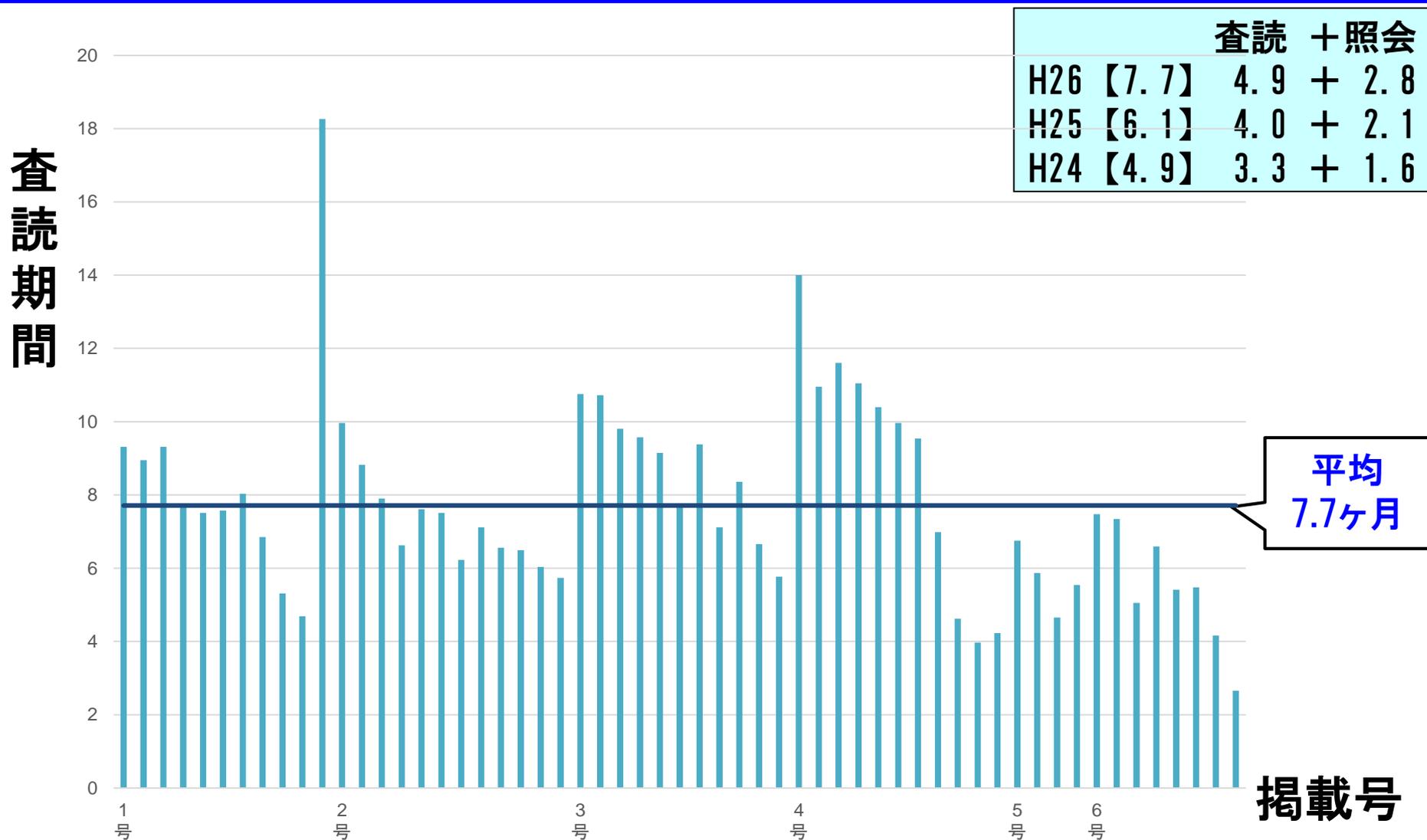
参考: 共通英文誌

平成26年D部門関連の一般論文投稿が63件

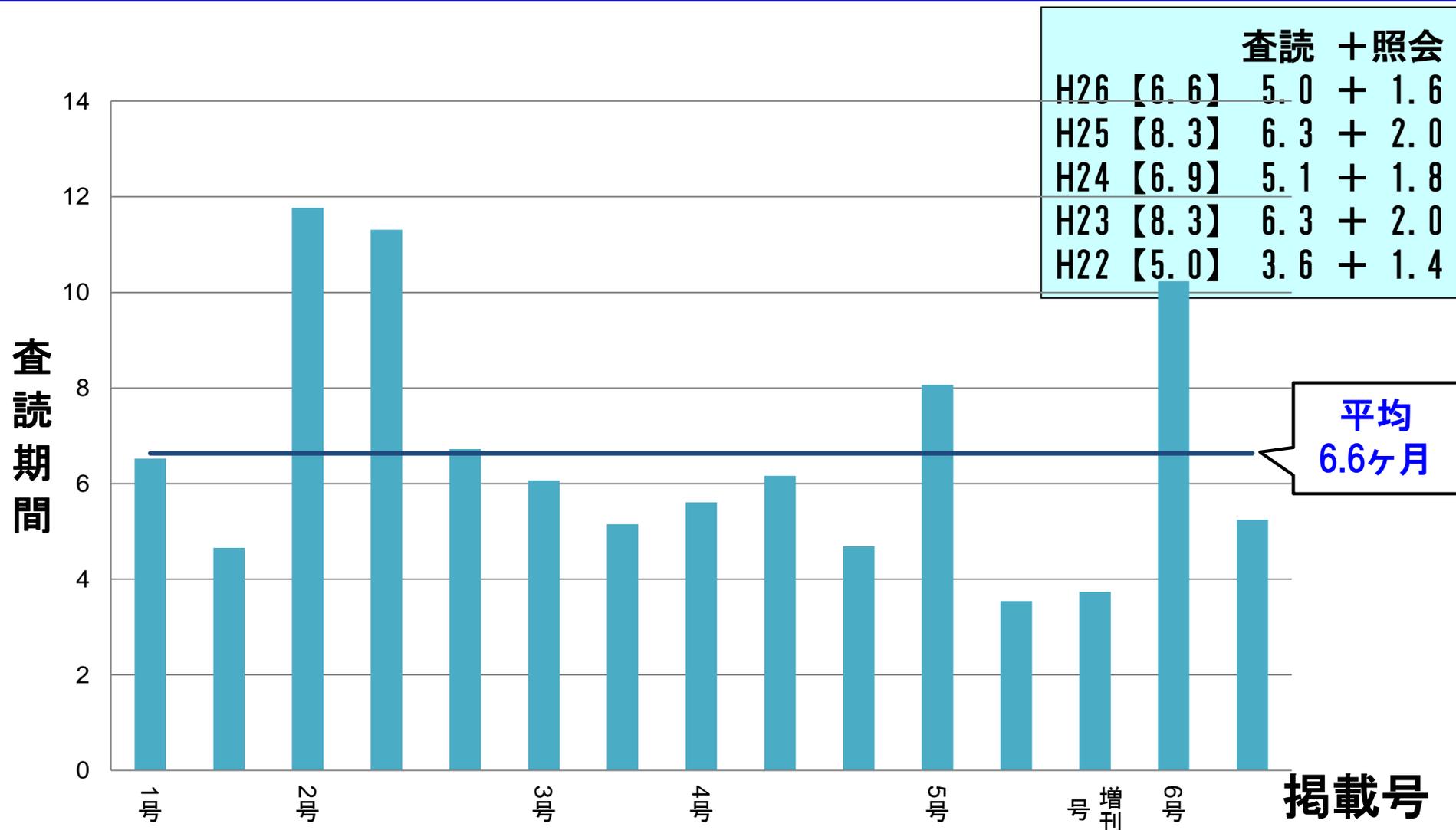
論文誌D(論文) 論文掲載までの所要月数



英文論文誌D(論文) 論文掲載までの所要月数



共通英文論文誌(D部門投稿論文) 論文掲載までの所要月数



(2014年/H26)

18 電子査読システムの運用状況について

編修長補佐 鈴木聡
(東京電機大)

19 電子投稿・査読システム運用状況

- 上期相当(1～7月)分の投稿論文数の推移※

- 平成25年:130件
- 平成26年:149件
- 平成27年: 58件

※第2回D部門和文論文委員会主査会資料27-2-2-1より集計

- 英文＋和文の全体投稿数は増加しているが、今年の和文論文数は減少傾向にある。
- 和文論文誌への投稿・特集号企画を、積極的にご検討願いたい。

英文論文誌 編修長

大石 潔 (長岡技術科学大学)

- 目的
 - 論文査読の基準を明確にすること。
 - 論文投稿者と査読者が論文に対して共通の認識を持つこと。
- 査読期間を短縮すること。
- 査読に対する不公平感をなくすこと。

- 論文の内容に対する全責任は投稿者にある。
- 論文の査読は論文指導ではない。
- 論文の価値の評価をするのは査読者ではなく、読者である。
 - 投稿者は評価に耐えられる論文を作る。
 - 査読者は論文を早く、正しく処理する。
- 次の論文を出したくなるような査読をする。
 - 何でも掲載すればよいというのではない。
 - 論文誌のレベルが下がれば投稿する魅力もなくなる。

23 査読の要点(論文が備えるべき要件)

- 電気学術または技術に寄与するか
- 新規性, 創造性, 有用性のいずれか1つが認められるか
技術面だけでなく, 考え方, 応用上の問題点の指摘など, 広い観点からの新規性, 創造性, 有用性の判断がポイント
- 明白な誤り, 矛盾点がないか。論旨が一貫しているか。まえがきで指摘した問題点が, むすびで結論付けられているか
- 同一内容が発表されていないか

- 判定は4段階とし、以下の基準による。
 - ① エディトリアルな修正のみ：
掲載(A判定)
 - ② 修正内容が推奨項目(Suggested change)のみ：
条件付き掲載(照会后掲載)(B判定)
 - ③ 修正内容に必須項目(Mandatory change)を含む：
照会后判定(C判定)
 - ④ 論文の要件を具備していない：
返送(D判定)
- 照会后判定(C)は初回査読のみ選択可能

25 照会文の書き方(A, B, C判定)

- ① 必須修正項目(Mandatory change),
 - ② 推奨修正項目(Suggested change),
 - ③ エディトリアルな修正項目(Editorial change)
- に分け, 判定の根拠を明確に記載する。
- ①の必須項目のある論文は, 照会后判定(C)とする。
 - ②の推奨項目と③の項目のみの論文は照会后掲載(B)とする。
 - ③の項目のみの論文は掲載(A)とする。

26 1回目の査読でA判定をつける場合の 判定の際の注意

- 電気学術または技術に寄与していることを記載する。
- 新規性, 創造性, 有用性のどれが認められるかを(複数でも良い), 明確に記載する。

- 理由を具体的に、明確に記載する。
- 客観的な証拠に欠けていると判断された論文については修正の上、新たな論文としての投稿を勧める。
- 新規性、創造性、有用性のいずれも有していないことを明確に説明する。

(例)

- 既に発表されている論文**との違い、優位性が無い、あるいは、同一内容である。
- 論文の目的・主張・効果などが、論文記載のシミュレーションや実験データでは確認できず、新規性、創造性、有用性のどれも認められない。
- 理論式の展開の**部分に誤りがある。

- 掲載決定論文の内容の変更は、原則として誤字、脱字、フォントの不一致など、editorialな修正を除いて一切認められない。掲載決定後、最終原稿で意図的に内容を追加したことが明らかになった場合には、掲載の決定を取り消す場合がある。
- 査読マニュアルの内容は、常に改善してゆきます。なお査読マニュアルは産業応用部門論文委員会のページ
<http://www2.iee.or.jp/~ias/d-ron/sadoku/>からリンクできます。
- 本年度より、副編修長の役職を廃止し、編修長補佐(2名まで)としています。

和文誌編修長 村上 俊之
(慶應義塾大学)

英文誌編修長 大石 潔
(長岡技術科学大学)

D2副主査 満倉 靖恵
(慶應義塾大学)

30 事前のご意見とご質問について

- 査読について: 2件
- 論文について: 4件
- 査読システムについて: 2件
- 論文委員について: 1件
- 意見交換会について: 1件

合計10件, ご意見・ご質問を頂戴しました。
ありがとうございました。

H27:10件, H26:11件, H25年:12件, H24年:11件, H23年:3件

31 【ご意見・ご質問】 査読期間について (1)

Q: 査読者の査読遅れに加えて、編集担当の方の対応の遅れにより、特集号に間に合わないことが3月号では起こりました。私も査読等、遅れがちなので、お互い様な面もありますが、まさにお互いに心していかないといけません。

今後とも査読期間の短縮に向けて努力していきたい
と思います。

33 【ご意見・ご質問】 査読システムについて (2)

Q:昨年度,初めて委員を担当しましたので,年間の査読論文数が妥当なのか少し気になりました。意見交換会にて年間査読件数のヒストグラムが提示されますと,査読の受諾・辞退を判断する参考になるかと思えます。

査読者としてのご意見, ありがとうございます. その時の状況によって受託の可否は異なるかと思しますので, ご本人のご意思を以て受諾または辞退をご判断いただければと思います.

35 【ご意見・ご質問】 SCI取得について (3)

Q: 英文論文誌DはSCI取得を目標とされており国内外問わず論文執筆時には掲載論文を引用するよう努力しております。ただ、既にSCI登録されている論文誌からの引用でないという意味が無い、時間が経った(1年半?)論文を引用しても意味が無いなどのうわさをどこかで聞いたことがあります、もし本当であればどのような制約をクリアすればSCI取得にプラスになるのかご教示いただけないでしょうか。既にどこかで明記されているようでしたら申し訳ございません。

<http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/IEEJ-JIA/author/citations%28J%29-2013-2.pdf>

に説明を掲載しております。

2011年の Impact Factor = B/A

A : 2009年と2010年に掲載された論文数

B : 2009年と2010年に掲載された論文が、2011年中に引用された回数

Q: 論文構成があまりにもひどいものが散見される。学術論文としての基本がなっていない投稿論文がある。しかし、それを指摘することは「論文指導」になるという事でご法度になっている。結果として論文の体をなさないものが論文として掲載されてしまい、部門論文の品格を下げてしまっている。

新規性，創造性，有用性のいずれかが判断できない論文につきましては，論文指導としてではなく，不明瞭な部分を指摘いただき，掲載条件を満たしていない旨，明記いただければと思います．また，そのような論文につきましては，できるだけ早い段階での判断をお願いできると幸いです．

ご参考：

論文の質と研究の質について

2015年3月号 産業応用部門ニューズレター

39 【ご意見・ご質問】 英文論文誌について (5)

Q: 英文誌について、共通英文誌に加えて部門誌でも作られています。区別が良く分からず投稿が分散してしまわないでしょうか。共通英文誌には、Impact Factorが付いているので、これが失われてしまわないかと思っております。

英文誌としての区別はありません。現状では、共通英文誌はSCI登録がされている論文誌、D部門英文論文誌はSCI登録されていない論文誌になります。ただし、共通英文誌の掲載可能ページ数(708ページ)には制限があり(+200ページは増刊で対応)、今後の論文誌の国際的な活性化には好ましくない状況になっております。こうしたことから、今後は部門ごとの英文誌の活性化が必要になると考えており、今回のD部門英文誌のSCI取得の試みとなっております。

41 【ご意見・ご質問】 意見交換会について (6)

Q: できれば、意見交換会をこのメールのみで完結して回答できる状態にしていただけると助かります。自分の担当グループを調べるために、ホームページにログインするとか、過去のメールなどを探して、自分が何グループだったかいちいち調べないといけません。せめて、メール内にグループ名と内容の対応表があればそれを見てグループ名を記載することができます。来年度からご検討いただければ幸いです。

メール送信は、論文委員会のグループ毎に配信しており、件名、文頭、出欠連絡票の文末に論文委員会のグループ名を入れています。複数のグループに属している場合は、そのグループ毎に開催案内が届きますので、出欠連絡票の「3. ご担当グループ」の箇所を選択していただければと存じます。

「例：(D1)」

件名：要回答【電気学会】産業応用部門大会（大分大学）論文委員意見交換会開催のご案内(D1)

文頭：※本メールはBCCで（D1）へ発信しております。

出欠連絡票の文末：(D1)

Q:昨今のOA論文や他雑誌等と比べて電気学会の論文掲載料が高価かと感じます(基準ページで10万円前後)。現在、安いところでは(300ドルー400ドル(3万円ー5万円)程度が増えてきているので、10万円という値段がゆくゆく投稿数の減少を招く可能性があるのではないかと危惧します。

電気学会の基準ページ数は6ページとなっており、その場合ですと少し割安(64,800円)になります.

45 【ご意見・ご質問】 査読システムについて (8)

Q: 査読システムに名前が登録されていない方に査読依頼をして査読者データベースを増やしていただくと助かります。たとえば、査読システムに未登録の査読者に査読を依頼する際のメールに、URL リンクを一回クリックすれば、あとは名前・所属・専門分野だけを記入するだけでデータベースに登録するようしてもらえると助かります。

現状でも, 入力必須項目は名前, 所属, 電話, e-mail
のみになっております.

<https://submit.iee.or.jp/main/cgi/sstk-form.cgi>

47 【ご意見・ご質問】 査読システムについて (9)

Q: 査読を断る際に, 適切な査読者を挙げてもらうような文面にしてもらうと助かります.

査読者作業要領にて、査読者候補の推薦をお願いしている文面が記載されています。査読システムでの表示については検討してみます。

49 【ご意見・ご質問】 論文委員について (10)

Q: 海外の方に論文委員になって頂くという話があったと思いますがその進捗を共有して頂きたいです。(個別にお願いする際に勘案したいので。)

英文誌設立当初から論文委員増強の方針がありましたが、あまり外国人の論文委員が増えていないのが現状です。現在、部門国際委員会で検討を行っており、近々論文委員増強にむけての依頼方法を具体化する予定です。

Q: 査読結果(他の査読者の査読内容)の開示はできないか？

第1ステージで査読を行った査読者は、第2ステージ以降は再査読者に割り当てられない限り、他の査読者の査読結果を確認することはできません。また、システムの制約上、再査読者に割り当てられていない過去の査読者に査読過程を開示することは難しい状況です。

そこで主査会では、査読者で第2ステージ以降に再査読者とならなかつた場合、査読者の依頼に応じて、幹事が個別に査読内容(照会事項および判定)をお伝えする手続を検討しています。

終了時間:13:10

これにて意見交換会を終了します

ありがとうございました